

『宗教哲学研究』 投稿規定

『宗教哲学研究』編集委員会

二〇二四年三月二三日改訂

- 一 学術論文、研究ノート、書評を『宗教哲学研究』に投稿する者は、宗教哲学会の会員（賛助会員は除く）であること。ただし、掲載希望年度までの会費を納入済みの会員にかぎる。
- 二 学術論文は広い意味での宗教哲学に関する未発表の学術的な内容のものであること。
- 三 研究ノートは研究報告・国内外の他学会情報・研究動向・学術研究に関する提言などとする。
- 四 書評は宗教哲学・哲学・宗教研究に関する新刊書、翻訳書、学術論文を対象とするものであること。書評の投稿希望者はまず編集委員会専用のメールアドレス(sprj.edit@gmail.com)に連絡し、希望する書評対象を申し出ること。
- 五 注および図版や表を含めて、学術論文は四〇〇字詰原稿用紙に換算して四〇枚以内、研究ノートは二〇枚以内、書評は一〇枚程度とする。
- 六 学術論文の採否は、複数の査読者による査読の結果を踏まえ、編集委員会において決定する。研究ノート、書評等の掲載については編集委員会が判断する。
- 七 特殊製版（図表、図版、写真など）の費用は投稿者が負担する。
- 八 『宗教哲学研究』は毎年一回、三月末日に発行する。
- 九 『宗教哲学研究』に掲載されたすべてのものの複製権ならびに公衆送信権は、本学会に委託されたものとする。掲載された論文・書評等は科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）でも公開する。ただしこれは執筆者本人による複製権ならびに公衆送信権の行使を妨げるものではない。
- 一〇 投稿希望者は、本会誌掲載希望年度の六月一日から六月末日の間に、学術論文、研究ノートの種類とその論題（仮題可）を、編集委員会専用のメールアドレスに電子メールで提出する。電子メールの件名に「宗教哲学研究論題」と明記すること。
- 一一 投稿原稿の提出締切は本会誌掲載希望年度の八月末日とする。原稿は電子データを編集委員会専用メールアドレスに添付ファイルで送付する。
- 一二 投稿原稿は本学会ウェブサイト (<http://sprj.org/>) に掲載されている「執筆要項」に従うこと。

『宗教哲学研究』執筆要項

『宗教哲学研究』編集委員会

二〇二四年三月二三日改訂

一 原稿の体裁

1 和文論文の場合

- ・ 原稿は縦書き。ワープロ原稿（縦書き）の書式は、一枚四〇字×三〇行。用紙はA4横置き。
- ・ 応募論文の枚数は、右の書式で一四枚以内とする（注を含む。四〇〇字詰め原稿用紙に換算して四〇枚以内）。

2 欧文論文の場合

- ・ 書式はA4用紙縦置きで、一ページ二〇行とする。分量は七〇〇〇語以内（注などを含む）。
- ・ 欧文論文は、英語・ドイツ語・フランス語のいずれかのものに限る。

3 研究ノートの場合

- ・ 和文論文と同じ書式で、七枚以内（原稿用紙換算で二〇枚以内）。

4 書評の場合

- ・ 和文論文と同じ書式で、四枚程度（原稿用紙換算で一〇枚程度）。

* なお、研究ノートと書評は原則、和文のみとする。

5 その他

- ・ 連絡先等
 - ・ 論文の末尾に執筆者氏名（ふりがな付）・掲載時の肩書き（執筆者紹介欄に記載されるもの）・メールアドレスを明記する。
 - ・ 特殊文字
- ワープロの機能の制約上、印刷できない文字種を使用する場合は、プリントアウトした原稿に朱書きでその文字を記入する。

- ・ 図版の使用
 - A 図版は原則として、雑誌本体二頁（四段）相当分まで認める。制限内におさまるように執筆者の方で大きさ等を指定すること。
 - B 通し番号、表題をつけ、出典がある場合は明記する。
 - C 特殊製版などに必要な費用は執筆者が負担する。

二 注

- ・ 注には算用数字で通し番号を付し、本文の後に一括する。参考文献一覧の類は認めない。ただし、略号は可。略号がある場合は、本文、略号（凡例）、注の順とする。

三 文章の形式

1 漢字使用

- ・ 不必要に漢字を多用することは避け、できるだけ読みやすい文体を心がける。

2 数表記

- ・ 漢数字で年号や頁数を表示する場合は、「十」「百」「千」「万」などの文字を用いない。それ以外の漢数字についてはこの限りではない。

× 悪い例 千九百七十九年 三百五十八頁

○ 良い例 一九七九年 三五八頁

※ 二百万年・十月二十五日・二十世紀・第三十二回定期大会などは可。

3 原語挿入

- ・ 原語を挿入する場合には必ず括弧に入れる。

○ 良い例 エリアーデのいう象徴的人間(homo symbolicum)は…

4 括弧

文末に閉じ括弧がくる場合には、句点（。）は閉じ括弧の外におく。

× 悪い例 「最初にカオスが生じた。」（ヘシオドス『神統記』一一六行）

○ 良い例 「最初にカオスが生じた」（ヘシオドス『神統記』一一六行）。

四 文献の引用例

1 邦語文献

書名・定期刊行物名は『』で、論文名は「」でかこむ。

A 単行本―著者名（編者名）、題名、発行所、発行年、引用頁数。

例 上田閑照『禅仏教 根源的人間』岩波書店、一九九三年、八二―八三頁。
杉村靖彦・田口茂・竹花洋佑編著『渦動する象徴―田辺哲学のダイナミズム』晃洋書房、二〇二一年、iii頁。

B 論文―筆者名、題名、定期刊行物名、巻号数、発行年（編書の場合は編者名、発行所、発行年）引用頁数。

例 長谷正當「トランス・デサンダンスとしての超越」『宗教哲学研究』第二二号、二〇〇四年、三頁。

氣多雅子「ことばの創造性」『宗教の根源性と現代』第一巻、長谷正當・細谷昌志編、晃洋書房、二〇〇一年、四六頁。

2 外国語文献

書名、定期刊行物名はイタリックにする。

A 単行本―著者名（編者名）、題名、発行都市、発行所、発行年、引用頁数。

例 Paul Ricoeur, *L'homme faible*, Paris: Aubier, 1960, p. 122.

Toshiko Izutsu, *The Concept of Belief in Islamic Theology: A Semantic Analysis of Imān and Islam*, Tokyo: Keio University Press, 2016 (originally published in 1965), p. 248. 井筒俊彦（鎌田繁監訳・仁子寿晴・橋爪烈訳）『イスラーム神学における信の構造―イーヤーーン

とイスラームの意味論的分析』慶應義塾大学出版会、二〇一八年、三七四頁。

B 論文―執筆者名、題名、定期刊行物、巻号数、発行年（編書の場合は、題名、編者名、発行都市、発行所、発行年）引用頁数。

例 Antes, „Die Religionswissenschaft als Humanwissenschaftliche Disziplin“, in: *Zeitschrift für Missionswissenschaft und Religionswissenschaft*, Bd.63, 1979, S. 279.

William James, “A World of Pure Experience,” in: *Essays in Radical Empiricism*, Edited by R. B. Perry, Lincoln/London: University of Nebraska Press, 1996, pp. 39-91.

3 オンライン文献―題名、URL（最終閲覧日）。

例 村上春樹「共生を求める人々、求めない人々」映画『A2』をめぐって」

<http://news.kyodo.co.jp/kyodonews/2002/autm/>（最終閲覧日二〇〇六年三月二二日）。
National Child Traumatic Stress Network (2006). *Psychological First Aid 2nd edition*.

https://www.nctsn.org/sites/default/files/resources//pfa_field_operations_guide.pdf
（最終閲覧日二〇二一年一〇月二二日）。

4 引用省略 中間を略するときは「中略」、または「……」で省略箇所を明示する。

五 レジюме

和文論文には必ず、欧文（英語・ドイツ語・フランス語のいずれか）の論文題名と、二〇〇語程度の欧文レジюме（サマリー）を添付する。

欧文論文には、日本語の論文題名と、四〇〇字程度の和文レジюмеを添付する。

研究ノートにも必ず、欧文（英語・ドイツ語・フランス語のいずれか）の題名を付すこと。ただし、欧文レジюмеは不要。

六 キーワード

論文には必ず、日本語と欧語の二言語（論本文とレジюмеに用いた二言語）でキーワード四、五語を付すこと。

七 欧文論文のネイティブ・チエツク

欧文論文は必ず、論文が使用する言語を母国語とする研究者によって、文法的な誤りや不自然な表現などを修正してもらった上で、投稿すること。投稿の際には、修正を行なったネイティブ・スピーカー自身が書いた認定書（論文の言語表現の面での適切さを認定する旨を記した文書）を同時に提出すること。この認定書には、そのネイティブ・スピーカーの自筆署名および略歴も記されていること。

八 提出の方法

論題エントリーを済ませた応募原稿（論文、研究ノート）の電子データは、八月末日までに編集委員会専用のメールアドレス（spj.edit@gmail.com）に添付ファイルで送付すること。依頼原稿および書評については編集委員会からの指示に従うこと。

九 審査結果の通知

応募原稿の採用審査の結果は十月初旬に通知する。審査結果は、以下のいずれかである。

- A. 修正なしで掲載決定
- B. 文言や表記などに関する若干の修正を必要とするが、一定期間内に修正するという条件で、掲載決定
- C. 論旨や内容を、一定期間内に修正したのち、再提出する。再提出された原稿は再審査の上で、あらためて採否が決定される
- D. 掲載不可

十 校正

執筆者による校正は初校および再校とする。ただし、語句の修正などの必要最小限の訂正しか認めない（大幅な訂正があったときは採用を取り消すことがある）。また、編集の都合上、執筆要項に照らして、編集委員会の責任において原稿に手を加えることがある。

以上